

## 【1】高島プログラムに基づく具体的な取組

### (1) 共同授業研究システムについて

安曇川中学校区では、小中学校の教職員が各教科に分かれて所属する教科部会を本年度から立ち上げた。教科部会では、まず、中学校教員から、中学生に指導する中で理解や定着が不十分だと感じているところを出してもらい、そこからさかのぼって、小学校の何年生のどの指導内容を十分に押さえておかななくてはならないかを探っていく。そうすることで、学年の壁を越えてつなぎを意識した系統的な指導について考えることができている。

さらに、教科部会で検討したことをもとに指導案を作成し、安曇川中学校区3小学校の6年生を対象に、年間3回行っている合同学習の授業で実践している。小中の教員がTTで授業を担当するが、授業づくりの過程で中学校教員からの専門的な話を聞くことができ、小学校教員の指導力向上に役立っている。小学校教員からは、児童の様子を聞くことができる。中学校教員の専門的な知識と小学校教員の児童の実態にあった学習方法を合わせることで、つきたい力をより効果的につけることができると考えている。



### (2) 小学校の教科担任制について

高学年の算数科で、教科担任制を取り入れている。専門性を持った教員の指導により、中学校への学びのつながりを意識した授業が展開されている。また、担任とのTTにより、担任はつまずいている児童に個別に対応することができ、より丁寧な指導につながっている。



### (3) 学習環境づくりに向けた取組について

中学校区挙げて、ノースクリーンデイズや家庭学習強化週間に取り組んでいる。各小学校の「家庭学習強化週間」を中学校の定期テスト週間に合わせることで、一定の期間、「安曇川の子はみんな勉強している」状態を作るようにしたため、家庭での協力も得ることができた。

また、「安曇川中学校区家庭学習の手引き」については、新年度の学級懇談会で保護者に説明したり、自主学習ノートの裏表紙に貼り付けて学習内容の参考にしたりして、活用できるよう工夫している。

さらに、学習に集中できるように、「良い姿勢で話を聞く」ことを重点とし、話し合いの活性化で学ぶ楽しさを共有できる学習環境づくりを目指して各校で取り組んでいる。

## 【2】平成30年度中学校区の NEXT ONE

### (1) 特色ある取組

安曇川中学校区では、6つの「部会」とそれぞれの「教科部会」で小中の全教職員が協働して取り組みを進めている。

本年度は、3年に一度の部会改編の年で、若手・中堅の部会リーダーを中心に、学力向上部会として従来からの「国語部会」、「算数・数学部会」に加え、新学習指導要領の実施を見据えて新たに「外国語部会」を立ち上げた。さらに、「心の育ち部会」、「特別支援教育部会」に加え、「地域協働部会」も

立ち上げ、時代のニーズに対応している。

子どもに直接関わる取組としては、年間3回実施している合同学習が挙げられる。安曇川中学校区3小学校の6年生児童が一堂に会して中学校で学習することにより、中学校へのスムーズな接続と、より広い人間関係の形成を図っている。この合同学習における指導の在り方を検討し、指導案を作成するために、本年度立ち上げた教科部会では、年間3回以上の研究会を開催した。小中学校教員が各教科ごとに連携することで、中学校教員の専門的な指導や小学校教員のきめ細かな指導等、それぞれの良さを生かした授業をすることができ、学力向上につながるものと考えている。



## (2) 成果と課題

部会では、それぞれが特色のある取組をすることができた。「心の育ち部会」では、中学校区で統一した『小中引き継ぎシート』を作成し、生徒理解や生徒指導等に活用することになった。「特別支援教育部会」では、外部講師として、新旭養護学校の進路指導担当教諭を招いて高等部卒業後の進路について説明を聞き、児童生徒の将来について学ぶ機会を持った。「地域協働部会」では、各校の学校運営協議会や地域協働の取組の様子を情報共有することができ、今後の取組に生かしていくことを確認した。「国語」「算数・数学」「外国語」の学力向上部会からは、合同学習を中心に、小中が見通しある教育をしていく上で、それぞれの指導内容を知ることの重要性や、つながり深め合うための学習方法、児童に力をつけさせるための課題など、それぞれの立場で多様な意見の交流ができた。

昨年度までの合同学習は、どうしても当事者である6年生担任と授業教科担当の中学校教員が中心で、他の教員の関わりが薄いことが課題だった。そこで、本年度は教科部会を立ち上げて、小中の全教職員が各教科別に学び合える場を作った。その結果、小中それぞれの良さを生かした授業作り・授業改善を図ることができた。しかし、残念なことに、せっかく指導案づくりに関わっても、合同学習当日は6年生以外の児童が学校にいるため、ほとんどの教員が参観に行けないというのが実情だった。合同学習当日の学校の動きを工夫したり、教職員が授業を見て成果を確認し、さらに学びを深める機会を作ったりすることが次年度の課題となっている。

## 【3】次年度の構想

「いきいきと学び合う安曇川中学校区」をテーマに、子どもも教職員もお互いに学び合える場の設定をしたい。具体的には、教科部会で作成した指導案をもとに行う合同学習を、中学校区の全教職員が参観できるような体制を整えたい。そのために、第2回合同学習を出張の少ない月曜日から水曜日に設定し、教職員が中学校に集まりやすいようにしたい。合同学習で実施しない教科については、教科ごとの学習会を持ち、日々の授業改善に向けて話し合ったり、それを実証する授業研究会を持ったりしたい。授業が変われば子どもも変わると考え、子どもの学力向上に向けて、共同して授業研究に取り組みたい。

また、部会の取組についても、共通理解・共通実践を全員で進めていきたい。特に、学習規律は、本年度の「良い姿勢で話を聞く」、「丁寧な言葉遣いをする」をさらにしぼって、「敬語で話せる子どもの育成」に力を入れたい。敬語で話すこと、敬語が正しく使えることは、国語部会が次年度取り組みたいこととして挙げているほか、「学びの基礎チャレンジ」テストの結果からも指導に力を入れる必要性が感じられる。「心の育ち」や「特別支援教育」にも関わる内容であり、言葉が行動・態度へと良い影響を及ぼすことが期待できる。中学1年生を対象にした中学校区のアンケートでも、先輩や先生方と話すときに敬語を身に付けておくことが必要だとの声が多数寄せられた。敬語で話せることは、将来子どもが自立して社会に出ていくうえで、良好なコミュニケーションをとるための大きな力となる。また、どの学年でも共通して取り組むという良さもある。「正しい言葉と行動で、学び合う安曇川の子」を目指して取り組んでいきたい。